



NDYS in Action, Newsletter

Natural Disaster Youth Summit Monthly News

Vol#6
April 1, 2008

世界中のアイデアを共有しよう!

編集 (P1-2) 加藤言人、三鷹、東京
翻訳(全て) 木梨敬之、神戸

トピック

世界中の生徒達の知識を共有しよう

NDYS フォーラム2008/神戸の概要



NDYS Youth Editors

NDYS フォーラムプレゼンテーションの概要(パート1)

前回のニュースレターで紹介しましたNDYS フォーラム2008は3月に神戸で開きました。ここでは、このフォーラムで発表した6カ国・地域、10校のプレゼンテーションの内容を紹介します。

環境防災教育を通じた ICT 国際交流 / 名古屋市立柳小学校一愛知



柳小学校では、防災教育による国際交流を行う多くの授業が行われています。彼らは、学校でどのような活動をしているかを発表してくれました。この試みは、小学3年生から始まり、彼らが卒業するまで続けられます。3年では、“ティ・ヘアプロジェクト”と呼ばれるものが行われます。これは、生徒たちが世界中の子どもたちとティ・ヘアを交換し、お互いの文化や習慣を学ぶというもので、“キッズ防災バッグづくり”をして交流を深めます、4年では、命と防災の大切さについて学び、“ビタミン供給の為の安全マップ”を作ります。5年では、“緊急時におけるビタミン”の大切さを学びます。そして、この学習の最終段階、6年では、生徒たちは、“平和と防災”について学びます。生徒たちは、どのように平和が災害に対処するために重要なのかを学び、世界の学校と意見を交換します。

災害安全マップづくり / 三木市立自由ヶ丘中学校一兵庫

生徒たちは、彼らが作った安全マップについて発表しました。生徒たちは、彼らの地元を詳細に調べ、彼らが生活している地域の安全マップを作りました。発表した生徒たちは、彼らがそれまで知らなかった危険な場所を知ることができたと言ってくれました。また、災害が身近な問題であることを知り、世界の自然災害についても関心を持つようになった、と話していました。



地球温暖化と防災 / 兵庫県立川西高校宝塚良元校一兵庫



ここでは、生徒たちは災害、特に台風の備えについて調べました。生徒たちは、災害安全マップと自分たち用の防災バッグづくりを通して、地球温暖化についても調べました。

彼らは、人々が災害について知り、知識を交換し共有することがとても重要であることを知りました。生徒たちは、私たちの地球や人の命を守るためにも、情報を大切にすべきだと語りました。

気候変動と洪水／SECONDARY METTALURGICAL SCHOOL—KOŠICE, スロバキア

SECONDARY METTALURGICAL SCHOOL では、生徒たちが洪水についてさまざまなことを調べてくれました。洪水が起こる原因を調べ、災害安全マップづくりを通して、洪水が発生する前、間、後には何をすればよいのかというアドバイスを作っています。

彼らの提案によれば、洪水の前には、

- ・ 氾濫地域にある建物は避けましょう
- ・ もし、洪水が予見できた時は、暖房、温水器、電気版などを上に上げましょう
- ・ あなたの家に、水が逆流してこないように、逆止め弁は閉めましょう
- ・ 建物に水が入ってこないように防壁を作りましょう
- ・ 水がしみこまないように防水テープで壁の隙間を埋めましょう

そして、洪水の間は、

- ・ 水が汚れた時の為にきれいな水を浴槽に貯めておきましょう
- ・ 最新の災害状況を知るために、ラジオを聴きましょう
- ・ もし地域の地方公共事業機関が、全ての電源を切るように言えばそれに従いましょう
- ・ 家からの退避勧告が出された時は、それに従いましょう
- ・ もし避難前に家に浸水してきた時は、2階、必要であれば屋根に退避しましょう

洪水の後は、

- ・ ニュースを聞いて、地域の水が飲んでも安全であるかを確認しましょう
- ・ 被害状況についての確認をしましょう
- ・ 飲むときや食事のときは、水を沸騰させましょう
- ・ 公共機関が家に戻っても安全だと発表したときのみ帰りましょう
- ・ 水に囲まれている建物には近づかないようにしましょう

また、彼らは、“Disaster”という言葉の意味も調べました。そして、

“Disaster”とは、もともとは“絶滅、廃絶”といった意味のギリシャ語が由来と

なっていることを知りました。また、他には、現在のスロバキアの洪水の状況についても多くの情報を紹介してくれました。



気候変動と旱魃／PRIVATE TUNSCIPER SCHOOL-Bursa,Turkey, トルコ



スロバキアの生徒たちが調べてくれた洪水に対して、トルコの生徒たちは旱魃について調べてくれました。このトピックは、彼らの町、Bursa で今、起こっている深刻な旱魃の問題についてです。旱魃を避けるためには、何をすればよいのかを話しました。

車を洗う時は、ホースからの水ではなく、バケツの水を使いましょう

水を使う時には、蒸発する水の量が少ない時間帯を選びましょう

節電ができる洗濯機を使い、また、洗濯する際には漂白剤はできるだけ使わないようにしましょう。

飲用水の無駄遣いはやめましょう

空調を使わずに、換気扇を使いましょう

公共交通機関を使いましょう

年々、Bursa,Turkey の降水量は減少しています。彼らは、問題の深刻さを知ることが大切である、と語りました。旱魃についての知識を得ることが、それを回避、そして対処するための最初の一步なのです。





編集 (P3-5)
Sergio Daniel Paz;
Salta-Argentina.

トピック

自然災害と防災

人道的支援—ケニア (P3)

モザンビークの復興 (page 4)

心理学的な初期支援 (page 4,5)

人道的支援—ケニア

Humanitarian Help

洪水による被害にあっている1,200万人の人々を助けるために、欧州委員会（EC）は、ケニアのある地域に対し、3,000万ユーロ（米\$ 4,730万）を寄付しました。

“人道的な支援は、主に緊急時の対処と人命救助を目的とします。また、地域へのこの決断を契機に、人々の反応が増えることを目標に、欧州委員会は災害への準備と被害の削減に集中しようと考えている”と開発と人道的支援のための欧州委員会は語りました。また、これによって、災害によって最も甚大な被害をこうむる移動遊牧民を主に援助することになるとも語りました。

この資金は、主に牧畜民に、国境を越えて影響を及ぼす、天気による旱魃被害を削減するために使われます。

資金援助によって利益を得ようとするプロジェクトには、重要な厳選地の保護と水を管理するための機材の提供することが含まれます。それ以外には、その地域におけるコミュニティー・ネットワークの展開、水を運ぶラクダの隊列のような伝統的なものの保護、未開の土地への交通機関の整備、災害に準備、また、それを防止するための早期警戒システム、とその機関の設立の援助なども含まれます。

人や家畜への予防接種、母子の健康管理なども含む、基本的な健康管理の提供、より衛生的な環境づくりなども深刻な問題になっています。



牧畜民は、頻繁に起こる旱魃によって、家畜を失う。

The recovery of Mozambique

モザンビークの復興

国連のワールド・フード・プログラム（WFP）は、モザンビークの北の地区で起こったサイクロン、Jokwe によって被害にあった6万人の人々に緊急時の食物供給を行いました。

熱帯地方でのサイクロン、Jokwe は、3月の7、8日にかけて、モザンビーク北の海岸に上陸すると、8人の死者を出し、更には多くの家屋や学校にも被害を出しました。

WFP は、サイクロン、Jokwe による被害にあった人々を助けるために、他の計画のために用意していた資金を使った、とモザンビークの代表者である、Peter Keller-Transburg は話します。また、“この分を、もう一度、補充するには、米\$55,000が必要である”とも語りました。

モザンビークは、2007年の12月に季節的な大雨があり、それに続いての2008年1月に起こった洪水による被害から未だに回復しきってはいません。WFPによれば、政府による仮設住宅に移動した10万人の人々には、食糧が無い状態です。モザンビーク中央を流れるザンベジ川や他の河川付近の避難体制は解かれ始めています。



洪水から復興していくモザンビーク

心理学的な初期支援

Psychological first aid

類似する組織である、スリランカ赤十字社（SLRCS）とアメリカ赤十字社（ARC）が、津波による被害をこうむった五つの地域、Matara, Galle, Kalutara, Colombo and Gampaha で働いています。8千人の人々が彼らによって訓練され、約2万5千人の人々が助けられています。

“津波の災害の後には、私たちは、災害に会った多くの人々はその苦難をこえることの援助を行うために心理学者や精神科医の方が必要でした”と Avindra Jayawardene of the Faculty of Medicine at the Ruhunu

University in Galle は語ります。“そのコミュニティの中の敏感な個人の災害による精神的な影響を和らげるというのはとても良いことです”

しかし、彼は、“彼らは、彼らの持つ情報を共有しなくてはならず、そうでなければ、次の災害が起こったとき、違う条件で起こったことに対応することのできる実用的な経験は無く、また、彼らが学んだことをそこに適応させることもできないだろう”と指摘します。

また、ARC の心理社会的プログラムでは、従来の精神的健康問題のためのメンタル・ケアを行わなかったが、災害が起こった後に離れ離れになっていたコミュニティを修復し、更に未来に起こりうる災害に備えることに集中した。

このプログラムの根本的な考えは、災害が影響を与えるのは個人だけにではなく、コミュニティと支援機関をも乖離させるということです。



コーディネーターが怪我をした子どもたちを助けています。



壁に書かれた絵で、子どもたちに緊急時にどうすればいいかを教えています。

Source: www.irinnews.com



編集後記：私たちは、すでに世界が、自然災害によって傷ついた人々を助けるために何をしているか知っています。しかし、これが不幸な状況の終りなのではなく、準備することが発展していく上で重要な要素であるということの始まりなのです。このニュースレターで、私たちは、人々が生活する環境、そして、それに対処するための方法に賞賛の意を表します。最後に、私は、チーム、それも大きなチームとして、活動していくことの大切さを訴えたいと思います。なぜなら、それこそが、ここで述べたような諸問題に対処していくための最も良い方法となるからです。

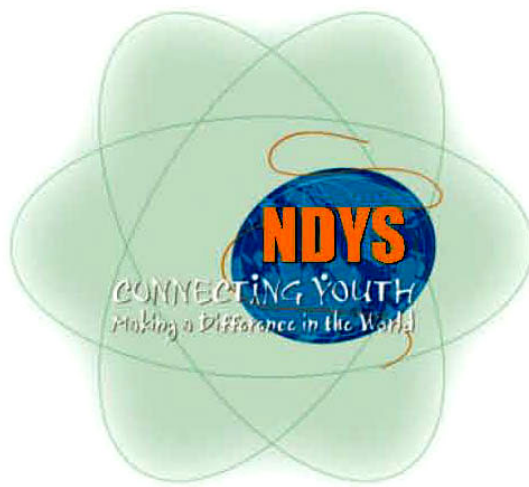
Sergio Daniel Paz、alta-Argentina

■ 詳しい情報については下記までご連絡ください ■

ndys@jearn.jp <http://ndys.jearn.jp>

NDYS 事務局：〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-1 ひょうご国際プラザ活動支援室気付

NPO 法人 グローバルプロジェクト推進機構 JEARN 事務所内



Communication saves lives!